

# JOINT

ふれあう・つながる・まなびの輪

## 東海大学からねづく 地域連携の試み





地域交流

地域連携

地域還元

# ふれあう・つながる・まなびの輪

東海大学地域連携センターでは、

地域の皆さまや自治体などとともに

さまざまな地域課題に取り組み、

東海大学の資源である

人・力・場とのマッチングを行いながら、

高等教育機関としての教育研究や社会貢献など、

大学と地域との連携・交流・運営活動に

取り組んでいます。

たとえば

地域に開かれる大学として

各キャンパスを開放する事業があり、

そうした活動をお知らせする

ローカルメディアを発行したり、

皆さんに大学と地域とのかかわりをテーマに

川柳を寄せてもらったりもしました。

生涯学習講座などは

どのキャンパスでも盛況で

たくさんのご参加をいただきました

うれしいかぎりです。

これからも東海大学は

地域の皆さまのお力をかりることで

学生らにチャレンジの機会を増やし

「自ら考える力」「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」

という4つの力を

養っていききたいと思っています。

そして

地域の皆さまとの交流で培われた力は

そのまま世界にも通じる力になりますと

考えています。

この冊子では、

2018年度に皆さまと成し遂げた

さまざまな事業を

「地域交流」「地域連携」「地域還元」の

3つに区分けしてご紹介します。

今後とも東海大学の地域連携活動への

ご理解とご協力をたまわりますよう

お願い申し上げます。





# 東海大学と地域が創り出す 地の縁・知の園・地の宴

## 『ちえん』とは…

「東海大学と地域が創り出す、地の縁・知の園・地の宴」をコンセプトに、湘南・伊勢原キャンパス周辺の地域と大学との交流促進を目的とした季刊発行のローカルメディアです。大学と地域の関わりを9つのコンテンツで紹介しています。

- ・タブロイド判・フルカラー
- ・8ページ
- ・無料配布
- ・季刊発行



キャンパスを開放した交流活動

# 7つのキャンパスから

東海大学の7つのキャンパスを開放して、地域に即した事業を展開しました。



## キャンパスは 楽しい開放区!

TOKAI グローカルフェスタ 2018

**湘** 南キャンパスでは2018年10月20日に「TOKAI グローカルフェスタ2018」を開催しました。地域連携センターによる「キャンパス大学開放事業」の一環として、本学と包括協定を結ぶ神奈川県平塚市、秦野市、伊勢原市と連携して大学を市民に開放するオープンキャンパス型のイベントです。3回



### 14号館

- 創エネ・省エネ技術の最先端 (パネル展示、講演会)
- 親子で楽しむ防災広場 (防災に関するワークショップ)



- チャレンジフェア (チャレンジプロジェクト中間報告会)



- 目指せ! KENKOレンジャー!!
- 科学の力でクッキング!?



ました。

今年度も80名以上が入会され

年度から実施しています。

体力の向上を目指して2009

が提携し、市民の健康づくりと

東海大学と神奈川県伊勢原市

が提携し、市民の健康づくりと

伊勢原キャンパスを開放

健康づくりのために

地元の方々の

健康づくりのために

伊勢原キャンパスを開放



1、2、8号館、松前記念館前 湘南マルシェ

3号館前 はしご車搭乗体験(親子で楽しむ防災広場)

4、11、12、13号館の各図書館 Open Library

松前記念館 TOKAI×MUSEUM GO!!



2号館前 チャレンジフェア

(ソーラーカー、人力飛行機、フォーミュラカーの展示)



目の開催となる今回は59にわたるプログラムを用意し、チャレンジゼンターの「チャレンジプロジェクト中間報告会」も同日に開催し、1500名をこえる来場者を迎えました。

8号館 国際フェア



10号館、13号館 おひろめ芸術祭



10号館 環境教室



東海大学では2019年1月26日に湘南キャンパスのある神奈川県平塚市で「第95回東京箱根間往復大学駅伝競走」初の総合優勝を果たした陸上競技部駅伝チームの「報告会」と「記念パレード」を行いました。力強いご声援をお送りいただいた地域の皆さま、ありがとうございます。

第95回東京箱根間往復大学駅伝競走総合優勝の報告会と記念パレード





**Voice**

プロジェクトリーダーの和田涼平さん  
(生物学部海洋生物科学科)  
「ボランティアプロジェクトは、今後も活動を継続して、もっと地域と深くかわかり、さらなる地域貢献につなげたいと思います」

第11回南沢ラベンダーまつり



札幌キャンパス

第11回南沢ラベンダーまつり

ラベンダーも笑顔も満開

**札幌** 札幌キャンパスで2018年7月22日に「第11回南沢ラベンダーまつり」を開催しました。

本キャンパスのある北海道札幌市南区の南沢地区が、日本のラベンダー商用栽培発祥の地であることから、ラベンダーを通じて地域とのつながりを深めることを目的に、2630株のラベンダーが見ごろを迎える時期に2006年度から毎年開催しています。今回は、企画立案から地域住民との調整、運営までを学生たちが担い、畑の除草にも取り組みました。



当日は、学生や隣接する付属札幌高校の生徒、地域住民ら約500人が来場しました。



地元、旭台町内会の皆さんによる植物交換会も大人気。

すつつちよう  
寿都町の北海道臨海実験所で  
研究発表会を開催



地域の方とのコミュニケーションの一環として、教職員・学生による寿都湾の海産物であるホタテガイやアサリなどの育成環境に関するさまざまな研究発表が行われました。



学生サークル「東海大学～祭屋～」による「YOSAKOI 演舞」をはじめ、札幌キャンパス吹奏楽部やダンス部も大熱演のパフォーマンスを披露しました。



キャンパスに響け子どもたちの歓声



たなばたコンサート

7月4日 高輪キャンパスのコモドール(食堂)で「たなばたコンサート」を開きました。

**高** 輪キャンパスでは東京都港区と一体となって児童が放課後に過ごせる居場所を大学内の施設に設置し、学習やスポーツ、遊びなどの活動や専門的なテーマを学ぶ機会を提供するなど、児童の自主性や社会性及び創造性を養い、地域交流や多世代間交流を推進しています。

2018年度は、子どもカレッジを週5日開校し、学生による教育支援イベントを30回以上実施しました。



たかなわクリスマスふれあいコンサート

Voice

保護者「学生さんたちはとても親切で、安心してたかなわ子どもカレッジに子どもを預けています」



12月5日 コモドール(食堂)で多世代の地域コミュニティによる「たかなわクリスマスふれあいコンサート」を開催。



5mの高さのクリスマスツリー。



ツリーには、近隣の小学生が作ったペットボトルオーナメントを飾りました。





富ヶ谷二丁目夏祭り



東京のど真ん中でハチミツ採取？  
夏祭りにクリスマス会も

**代** 々木キャンパスでは、2018年7月7日にキャンパス正門内と東海大学通りで開催した「富ヶ谷二丁目夏祭り」の企画・運営に学生と教職員

約30名が携わりました。2016年まで富ヶ谷二丁目町会が開催していた「納涼祭」を、地域住民と学生との多世代交流を深めるイベントにしようと、2017年度から本キャンパスの学生と教職員が企画・運営に協力しています。



よよさんば代表の遠藤綾乃さん(観光学部観光学科)  
「今年は昨年度以上に地域の皆さんと連携しながら準備を進めてきました。これからもイベントを通して地域との連携を深めていきたいですね」



屋台やゲームコーナー、歌謡ショーなど盛りだくさん。



松ぼっくりツリーづくりやビンゴ大会、クリスマスソングの合唱などを楽しみました。

富ヶ谷二丁目町会クリスマス会

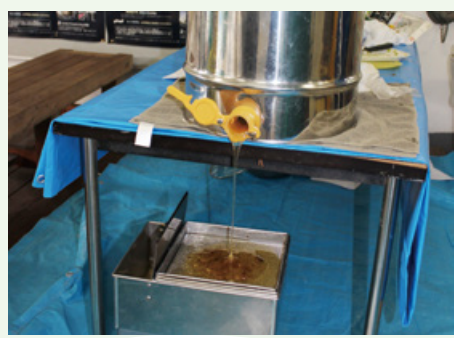
**チ** ヤレンジセンター・ユニークプロジェクト「よよさんば」では毎年、富ヶ谷二丁目町会と本キャンパスで地域の子どもを対象にクリスマス会を開いています。今回はキャンパス間の連携を深めようと初めて高輪キャンパスで活動する「チャレンジセンター・Takanawa共育プロジェクト(略称…TKP)」の学生も参加しました。TKPのメンバーは高輪地域の住民らとともに、恵比寿など都内を徒歩で観光しながら代々木キャンパスへと到着。よよさんばのメンバーの進行で、松ぼっくりツリーづくりやビンゴ大会、クリスマスソングの合唱などを楽しみました。



学生と園児と一緒に遠心分離機を回します。

はちみつのはちみつ

**代** 々木キャンパスの観光学部生が2018年5月30日、ミツバチの巣箱からはちみつを採取しました。2015年度からビルの屋上での養蜂やはちみつ採取、環境問題に関する勉強会などに取り組む「渋谷みつばちプロジェクト」の活動に賛同し、キャンパス内にミツバチの巣箱を設置し、学生メンバーが週に1度、巣箱内のはちみつの量やミツバチのコンディションなどをチェックしてきました。初しぼり当日は、渋谷区立富ヶ谷保育園の園児を招待し、巣箱から蜂を取り除いた巣板を学生と園児と一緒に遠心分離機を回してはちみつを採取しました。はちみつが流れてくると、園児たちからは大きな歓声が上がりました。



遠心分離機からはちみつが流れ出てきます。



着ぐるみを着た学生たちが司会進行。



# 深海魚と化石にふれた夏

洋上セミナー2018

ワクワク洋上散歩、駿河湾で深海魚を探そう！



## 清

水キャンパスでは、海洋学部が2018年10月21日に東海大学の海洋調査研修船「望星丸」で洋上セミナー2018「ワクワク洋上散歩、駿河湾で深海魚を探そう！」を開催しました。本セミナーは、参加者が望星丸に乗船して駿河湾を巡り、駿河湾の特徴や魅力、同学部の教育と研究の内容について理解を深めていただくことを目的に2013年度から毎年開催しています。

6回目となる今回は、静岡県内外の中高生と保護者ら一般市民67名がさまざまな体験プログラムに参加し、「参加して良かった」という声が多く聞かれました。

また、事後学習として、11月3日には本学卒業生のシャークジャーナリストの沼口麻子さんを招いて「よくばりサメトーク@海洋祭」の講演会も開催しました。



普段見られない海洋生物を目の前にして、参加者も興味津々。

## Voice

高校生「深海生物の特徴や面白い生態をわかりやすく教えてもらい、勉強になりました」  
参加者「清水に生まれ育ち、駿河湾には親しみを抱いている反面、意外と知らないことが多いので、地理や生物などを詳しく知りたいと思い参加しました。フレンドリーなクルー、学生たちのホスピタリティーに心から感謝しています」

## 海洋科学博物館と自然史博物館でガイドツアー

自然史博物館では、学芸員から恐竜全身骨格や化石についてわかりやすい解説が、子どもたちに「化石って何だと思う?」と質問するとさまざまな答えが飛び出しました。



## 2

018年7月16日に東海大学海洋科学博物館と自然史博物館で、地域の方々を対象にした「ガイドツアー」を開催しました。本イベントは、静岡市との包括連携事業の一環として企画したもので、親子連れなど約40名が参加しました。

海洋科学博物館では、約50種類1000個体以上の生き物の生態を観察。自然史博物館では恐竜全身骨格や化石についてわかりやすく解説し「骨だけでなく、足跡も化石になる」という話に大人も感心して聞き入る様子が見られました。



※農学部・農学研究科の教育・研究については「新キャンパス」「熊本キャンパス」及び「阿蘇実習フィールド」にて充実を図ります。



世界一  
行きたい科学広場 in 熊本 2018

科学ってすごい！おもしろい！

世界一  
行きたい科学広場 in 熊本 2018



子どもたちは、本物のように泳ぐロボットのサメに夢中です。

### 実施プログラム

- レゴロボットプログラミング教室
- スライムをつくろう
- 最新の医療機器に触れてみよう
- キラキラくるくるステンドグラス
- 多面体を知ろう
- 水中ロボット大集合
- IchigoJamであそぼう
- レゴ®でつくろう夢の街

ほか

2 018年8月9日に「世界一  
行きたい科学広場 in 熊本2018」を開催  
しました。このイベントは地域の子どもたち  
に科学の魅力やものづくりのおもしろさを伝  
えることを目的に、2014年から開催して  
います。今回は熊本、湘南、清水各キャン  
パスの学生や教職員、近隣の高校の生徒らが35  
のブースを出展。当日は約2300名が来場  
しました。

レゴ®ブロックで自由に「夢の街」づくり。



プログラミングを体験したり、スライムを作ったり、大人も子どもも楽しみました。







### ART CAFÉ

喫茶店を模した会場で、写真部、美術研究会の学生が制作したアート作品が展示され、ラテンアメリカ研究部の学生がホットコーヒーやエスプレッソ、紅茶を来場者に提供しました。

### 学前夕暮れシアター



映画上映後はトークセッションも行いました。



### 学前夕暮れシアター

「ここではない、どこかで映像でつながる」をテーマとした上映会。毎月1回、学生が選定した作品を上映し、人気を博しました。

地域連携イベント「にこにこ健康相談」健康相談とともに「脳年齢診断」なども実施し、多くの地域住民が来場しました。



## 東海大学地域連携センターによる交流発信活動

動物愛護の普及啓発を目的に、猫の譲渡会や犬の飼育相談会などの催しと連動して開催しました。



「いぬねこ LOVE ミーティング in 東海大学前〜犬も猫も人も暮らしやすい秦野(まち)っていいな♪〜」

# 地域交流 発信

東海大学では、住民・自治体等を対象にさまざまな地域課題に取り組み、本学の資源である人・力・場とのマッチングを行いながら、高等教育機関としての教育研究や社会貢献等、大学と地域との連携・交流・運営活動に取り組んでいます。

その一環として、東海大学地域連携センターでは大学と地域住民との交流促進を目的に、地域住民の活動や教職員・学生の取組みを通じてコミュニケーションする機会を創出しようと、「TOKAIクロスエア」を拠点として、地域住民を対象とした無料の講座やイベントを実施しました。



地域連携講座「駅前研究室へようこそ！」学生が講師となり「Best Global Brands 2018」にランクインしているブランドについて、調査・研究成果を解説しました。

### クロスエアで実施した講座・イベント [2018年度]

- 学前夕暮れシアター 全10回(定期映画上映会)  
主催:東海大学文化社会学部広報メディア学科 水島研究室
- 第49回海外研修航海報告  
主催:第49回海外研修航海研修団
- 駅前研究室へようこそ! 全2回(地域連携講座)  
主催:東海大学政治経済学部経営学科 岩谷研究室
- 原爆・被爆体験を聞く会(地域連携講座)  
主催:東海大学文化社会学部広報メディア学科 水島研究室  
共催:伊勢原市役所市民生活部市民協働課
- 未来のエネルギーを考えよう(地域連携講座)  
講師:木村英樹(ソーラーカーチーム総監督/東海大学工学部電気電子工学科教授)
- ウチの子の守りかた〜今日からできる“もしも”の備え〜(地域連携講座)  
講師:深谷美登里(一級建築士/神奈川県動物愛護推進員/ペット災害危機管理士)
- いぬねこLOVEミーティングin東海大学前  
主催:湘南大猫協議会  
協力:秦野市、神奈川県平塚保健福祉事務所秦野センター、東海大学地域連携センター、東海大学チャレンジセンター
- にこにこ健康相談 全3回  
主催:東海大学健康推進センター湘南健康推進室  
協力:大根・鶴巻地域高齢者支援センター
- ひらつか成人式みんなで祝うステージ装飾プロジェクト  
主催:東海大学教養学部芸術学科デザイン学課程 池村研究室
- ART CAFÉ  
主催:東海大学文化部連合会写真部、ラテンアメリカ研究部、美術研究会
- 認知症サポーター養成講座 全6回  
主催:東海大学教養学部人間環境学科社会環境課程 堀研究室

小田急線東海大学前駅南口バス停前の、大学と地域を結ぶコミュニケーション・スペース「TOKAIクロスエア」は、2019年3月をもって閉室しました。地域の皆さまには大変お世話になりまして、御礼申し上げます。



# 東海大学の 地域ソリューション



## 防災ソリューション

近年、頻発する自然災害は、市区町村範囲を越えた広域で発生し、大きな被害を与えます。地域防災活動は、基本的には市区町村単位で実施されますが、その内容は共通する事項も多く、また隣接する地区が連携することで被害の軽減が期待できます。

防災ソリューションに取り組む安心安全事業では、互いに隣接する神奈川県平塚市、秦野市、伊勢原市を主な対象として、地域の安心安全の中の防災に焦点をあて、市区町村間の広域連携による効果的な防災活動を検討することを目的に、地域の防災訓練への協力や防災シンポジウムを開催するなど、活動を展開しています。

## 健康ソリューション

近隣自治体に共通する大きな健康課題の一つとして健診受診率が低いという問題があります。東海大学と近隣自治体、神奈川県、民間が手を組むことにより、地域の健康課題解決に取り組んでいます。

健康ソリューションに取り組む健康バス事業では、健康意識の向上に働きかけ、健診へのプロモーションを図ることを目的に、各自治地区やイベント、薬局等の健康相談室等においても健康測定会を実施しています。

また、「地域の健康課題解決推進会議」において、民産官学が連携することで地域の健康課題の具体化と潜在的な市民・県民のニーズを明らかにするとともに、その課題の解決に資する企業などからの提案を受け、地域の健康課題解決を推進することを目的とした、学生教育に資する社会実装型フィールドワークや個別プロジェクトの推進、民間企業との共同研究なども展開していく予定です。

## 観光ソリューション

平塚市、秦野市、伊勢原市、厚木市、二宮町、中井町の神奈川県内の4市2町の地域連携事業として、域外からの交流人口を呼び込むことを目的とした観光地域ブランドを開発中です。

地域連携事業を継続するには、その地域が連携のメリットを実感できることが重要です。観光ソリューションに取り組む観光ブランド開発事業では地域特性や地域観光シーズなどを活かしたブランドの構築を中心に事業を進めています。

域外からの交流人口の獲得や継続性、複数地域の連携の可能性からも実現性が高いと考えられるこの事業の具体的な取組みとして、例えば4市2町が所在する神奈川県の「人生100歳時代」の取組みに着目し「食」をテーマとしたフードツーリズムや自然環境を活用したエコツーリズムの検討を進めています。

### 【地(知)の拠点をめざす 連携活動とは】

2013年度から事業を推進してきたTo-Collaboプログラムで培ってきたさまざまな地域連携活動の実績を基盤に、住民・自治体等のさまざまな地域課題に取り組み、地域コミュニティの中核的存在として地域貢献につなげる活動です。





## 地域の「自主防災避難訓練」の運営に協力

2019年2月2日に平塚商業高校で開催された、平塚市中里地区や大磯町高麗地区など4町内合同の「防災避難訓練」に協力しました。当日は地域住民ら約50名が参加。学生もアシスタントとして参加し、「避難する際に気をつけたほうがよい点は何?」「水害が発生したときにはどのように対応するべき?」といった防災クイズを出題。参加者と意見交換をしながら、アドバイスを送ったほか、避難所でエコノミークラス症候群にならないために有効な運動も紹介し、住民と一緒に行いました。

情報理工学部情報科学科の内田教授は、短文投稿サイト「Twitter」に災害情報を書き込むアプリ「DITS」と、その書き込みの内容を地図上に表示するアプリ「DIMS」について説明。震災時には被害状況によって、自治体による情報の収集が遅れることも考えられることから、地域住民も情報の発信者になることの重要性を語りました。



## 熊本の防災シンポジウム

2019年3月21日に熊本キャンパスで防災シンポジウム「熊本南阿蘇の復興の今、その教訓を他地域にどのように活かすか!」を開催しました。

このシンポジウムは、2016年4月の熊本地震の発生から3年目を迎えた阿蘇キャンパスが位置する南阿蘇村の復興の現状を知り、他地域へどのように活かすかを考えることを目的としています。今回は文部科学省2016年度「私立大学研究ブランディング事業」に採択された「災害・環境変動監視を目的としたグローバル・モニタリング・システムの構築による安全・安心な社会への貢献」と2018年度東海大学連合後援会研究助成金の地域連携部門に採択された「防災・減災・まち歩きアプリの利活用による地域連携と防災教育への展開(詳細は21ページ)」と共同で開催しました。

当日は、荒木九州キャンパス長が阿蘇キャンパスの現状や今後の動向について紹介した後、第一部では南阿蘇村地獄温

泉青風荘の河津誠社長と九州教養教育センターの福崎教授による基調講演が行われ、南阿蘇の復興状況と今後の課題、震災直後の状況や炊き出し活動、学生が中心となり実施する「阿蘇大復興祭」等の取組みについて紹介されました。

第二部では、ICTを活用したアプリケーションの開発や、湘南や札幌地域で実施されている自治会や中高生への防災ワークショップなどの各事業の取組みについて報告されました。

安心安全事業代表者の工学部土木工学科の梶田教授は「熊本の教訓を踏まえ、今後の防災にどのように活かしていくか意見交換ができた貴重な機会となった」と語りました。





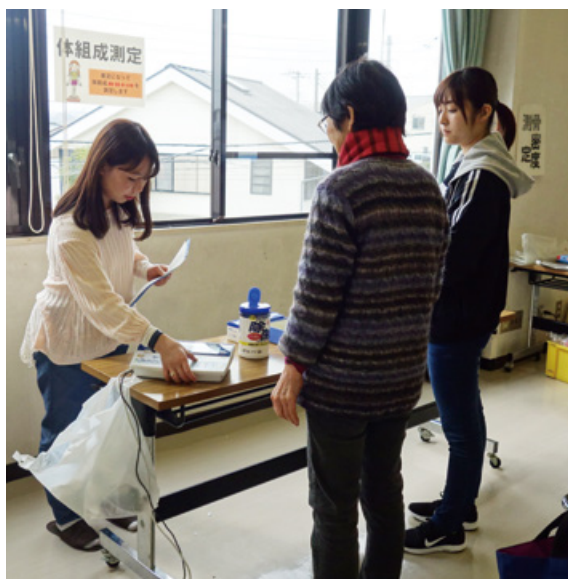
# 健康バス測定会

自治体共通の課題の一つに「健診受診率が低い」という問題がありました。そこで健康学部健康マネジメント学科では、大学院医学研究科ライフケアセンターと伊勢原市、秦野市と連携し、2018年6月18日から2019年3月13日まで両市で「健康バス測定会」を合計17回開催してきました。このうち10回の測定会において、健康学部のフィールドワークとして55名の学生が各回10名前後参加し、地域住民の健康測定を担いながら交流しました。

健康バス事業では、バスに測定機器を積み込んで公民館などに赴き、また、薬局などの健康相談室などでも健康測定会を実施するなど、健康意識の向上に働きかけ、健診へのプロモーションを図りました。



廃油(天ぷら油)を燃料にして走るバス



健康学部の春学期、秋学期の「フィールドワークA」の授業で「健康バスと伊勢原市の健康増進事業」のプロジェクトを選択している学生もスタッフとして参加しました。





# 「東海大学 地域の健康課題解決推進会議」の第1回連携推進委員会



2019年1月22日、湘南キャンパスで「東海大学地域の健康課題解決推進会議」の第1回連携推進委員会を開きました。

この会議は、本学をはじめ神奈川県と平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町、二宮町が参画して結成したものです。地域における民産官学が連携することで地域の健康課題の具体化と潜在的な市民・県民のニーズを明らかにするとともに、その課題の解決に資する企業などからの提案を受けて、地域の健康課題の解決を推進することを

目的としています。今回実施した連携推進委員会の下に、普及教育委員会と開発研究委員会を設置し、学生教育に資する社会実装型フィールドワークや個別のプロジェクトを推進するほか、民間企業との共同研究なども展開していく計画です。



同委員を務める本学教員もそれぞれの専門分野を生かした健康課題に関する教育研究活動の展望を語りました。

# 観光ブランド開発

神奈川県平塚市、秦野市、伊勢原市、厚木市、二宮町、中井町の4市2町と連携して、域外からの交流人口を呼び込むことを目的とした観光地域ブランドの開発に取り組んでいます。

## ①「食」をテーマとしたフードツーリズム事業

「食」を目的に訪問してもらうには、特色ある食材と工夫された食の提供方法（料理方法）、PR方法などが求められます。まずは、対象エリアにはどのような食材が存在しているのか、その食材の旬や現在の販路、宣伝方法などを整理し、その食材および食材を活用した料理とPR方法を検討するところから始めています。特に個性と思われる食材と料理の時期には、複数の市町が連携・協力した「食フェス」の開催なども検討中です。

## ②自然環境を活用したエコツーリズム事業

観光、自然環境教育を軸として、例えば子どもを対象とした環境教育や森林を活用した森林セラピーなどを核とした事業を計画しています。この事業は、年間を通してほぼ実施可能であり、季節ごとに複数の市町が連携したプログラムを開発し、年間カレンダーを作成します。

その準備として、まずは対象エリアに存在している自然体系の特徴を整理して、当該地域の特色ある自然とは何かを明確にするところから始めています。



# 地域が学生を育て、 学生が地域に恩返しする

〔学生が主体となる連携活動とは〕学生による連携活動は、地域との活動を通じて授業では学べない実践力を身につけること、そして、育ててもらっただけでなく、地域から評価していただけるような地域貢献をし、地域に恩返しをする活動です。

第1部の「海浜植物を知る」では、三保海岸の植物写真を見ながら海浜植物の特徴を学び、第2部と第3部では、海岸を訪れ海浜植物を観察しました。その後、観察結果をグループごとに発表し合ったほか、三保の海浜植物を用いてハーバリウム(ガラスボトル内にシリコンオイルで保存した植物標本)づくりを体験しました。



## なんてないんだよ。

### 渚の植物観察会

2018年7月29日、海洋学部と静岡県静岡市との連携事業「渚の植物観察会」が開催されました。観察会の運営を担当したのは、海洋学部の学生有志による「海浜植物と環境教育プロジェクト」です。近隣の小学生から中学生までの児童・生徒と、その保護者計45名が参加しました。観察とグループ発表などを通して、世界文化遺産の地・三保の松原周辺に生息する塩生植物について学びを深めました。







期間中は学生や市民らがクロススクエアを訪れ、色とりどりの絵の具で布地を装飾しました。

# 成人式を飾ろう。

教養学部芸術学科デザイン学課程の池村ゼミ生13名が、神奈川県平塚市の平成31年成人式のステージ装飾を制作し、2019年1月14日の式典で飾られました。平塚市の特産品であるバラと成人を祝う言葉を組み合わせた図案をデザインし、無数のバラで彩られた布地が会場のメインステージ下に飾りつけられ、晴れの日に花を添えました。2018年11月には小田急線東海大学前駅南口の「TOKAIクロススクエア」で地域住民参加型のワークショップを行い、さまざまなステンシルプレートで横約7m、縦90cmの白い布地を彩りました。

「ひらつか成人式みんなで祝うステージ装飾プロジェクト」ワークショップ



ゼミ生の秋山碧さん  
「昨年度の自分の成人式では、準備や運営する人たちの存在を考えていませんでした。今回は私たちが裏方の立場。新成人の皆さんにもたくさんの人に支えられていることに気づいてもらえれば」



ステンシルプレートは、平塚市特産品のバラと、成人を祝う言葉を組み合わせたデザインです。

## 雑草



参加した小学生  
「海辺に生えている植物はすべて雑草だと思っていたけれど、いろいろな種類の植物が生えていることを知ることができました」







草原あか牛“eco beef ASO”

# おいしくエコ、 (飼育) はじめましょ。



農学部では、2018年10月28日に熊本市のレストラン「イタリー亭」と「ミヤモトホール」で、一般公開セミナー「草原あか牛“eco beef ASO”」を開催しました。この取組みは、同学部が阿蘇地域の風土・文化特性を生かして開発した肉用牛「草原あか牛“eco beef ASO”」の生産から流通・消費までを教材にして、地域貢献を果たす過程を通じて学生の社会的実践力を育成しようとする九州キャンパス教育支援プログラムの一環として2018年度から実施しているものです。

今回は、一般的に牛肉としての評価が低い子育てを終えた母牛(経産牛)の付加価値を見出そうと「草原あか牛“eco beef ASO”」を題材に加工法と調理法について講演と試食会を行い、学生、教職員のほかに県内外の農家さんや百貨店のバイヤーら約60名が参加しました。

本プログラムに参加する農学部応用動物科学科の梅崎さんと角田さんが、春から秋にかけて阿蘇地域に広がる野草地で放牧し、冬の間は牛舎で草飼料を多めに与えるeco beefの育て方の紹介や日本が輸入飼料に頼っている現状を解説したほか、精肉の加工・販売を行う(株)サカエヤの代表取締役社長・新保吉伸氏が経産牛を牛肉として利用するための熟成技術の解説、リストランテ・ミヤモトのオーナーシェフである宮本健真氏が赤身肉のおいしさを最大限に引き出す調理法を紹介し、実際に調理をして参加者にふるまいました。



当日発表した梅崎さん、角田さんは、ほかの学生たちとともに、座学だけでなく販売店での市場調査を行ったほか、食肉用の熟成現場を見学して学びを深め、このセミナーに向けて教職員とともにeco beefの取組み内容について取りまとめてきました。



高輪のれんノ市を運営



2018年5月4日・5日  
高輪キャンパスの構内を中心に開催された「高輪のれんノ市」の運営を近隣商店会等とともに行いました。

近隣の桜まつりに参加



チャレンジセンター・Takanaawa 共育プロジェクト(TKP)は、地域の活性化を目標とし、大学周辺の商店街を中心に活動を行っています。地域の方々と交流を図りながら、さまざまなイベントへの参加や運営をすることで、高輪地区を盛り上げていきます。

# 地元のお祭りをもりあげよう。

2018年4月1日  
高輪地区の高松桜まつりにTKPが参加。会場の設営、交通整理、撤収のボランティアをしながら、熊本震災復興支援のための熊本ラーメンを販売して売り上げ金を寄付しました。

高輪神社例大祭に参加



2018年9月8日・9日  
TKPのメンバー達が高輪神輿同好会の皆さんと一緒に神輿を担ぎ、高輪のまちを練り歩きました。

TAP館祭りに協力



2018年10月13日  
港区立高輪子ども中高生プラザ(TAP)主催の「TAP館祭り」に協力しました。



高輪地域の子どもたち500名が来場し、TKPはストローロケットとポップコーン配布を担当しました。



# 後援会助成金から 7プロジェクト発信

〔東海大学連合後援会研究助成金とは〕

東海大学連合後援会では、2004年度から環境関連の研究を支援しています。

2018年度は環境部門に加え、地域をキーワードに教育・研究を助成する「地域連携部門」を新設しました。

## 2

### 彫刻を触る☆ 体験ツアー2018

**事業名** 市民や自治体と共働した地域文化資源(屋外彫刻)に関する保存・活用の活性化事業

**代表者** 篠原 聡 課程資格教育センター准教授

奈川県の高校生や秦野市の市民、学芸員の資格取得を目指す学生ら20名が参加して、学内にあるブロンズの屋外彫刻に直に触れるメンテナンス体験を通じて新たな芸術鑑賞法を知ってもらうと「彫刻を触る☆体験ツアー2018」を実施しました。保存修復の専門家のレクチャーを受け、実際に湘南キャンパス内にある2体のブロンズ彫刻のメンテナンスに取り組みました。



**神**

奈川県の高校生や秦野市の市民、学芸員の資格取得を目指す学生ら20名が参加して、学内にあるブロンズの屋外彫刻に直に触れるメンテナンス体験を通じて新たな芸術鑑賞法を知ってもらうと「彫刻を触る☆体験ツアー2018」を実施しました。保存修復の専門家のレクチャーを受け、実際に湘南キャンパス内にある2体のブロンズ彫刻のメンテナンスに取り組みました。

## 7

### 空き家の庭と広場に、 風車の花を咲かせよう!

**事業名** 遠郊外戸建住宅地における多世代交流の居場所と空き家利活用

**代表者** 加藤仁美 工学部建築学科教授



**神** 奈川県伊勢原市の愛甲原住宅における居住者の高齢化を背景に福祉のまちづくりを継続してきたNPO法人とともに、空き家の利活用を含む多世代交流の場づくりの活動を通じて、住み続けられる住宅地の実現に取り組んでいます。  
今回は、「ミニユニティスペース「COCOてらす」で「空き家の庭と広場に、風車の花を咲かせよう!」を開催し、地域住民とともにペットボトルを使った風車で広場を彩るワークショップを開催しました。

## KENKO弁当で食育

**事業名** 湘南キャンパスから“美味しい”食育発信プロジェクト

～地域産品を利用した体験食育講座の企画実践活動～

**代表者** 森 真理 健康学部健康マネジメント学科准教授



**湘** 南キャンパスでは「美味しい」食育発信プロジェクトで考案した「KENKO弁当」の試食会を2018年12月11日に実施しました。学生や地域住民の方々に食に関する正しい知識を身につけてもらうことを目的に、今回の「KENKO弁当」には、「適塩」と「スポーツキッズのケガ予防」をテーマに、豆腐グラタン、さわらの野菜あんかけなど、カルシウムやたんぱく質を豊富に摂取できるように工夫された惣菜が盛り込まれました。そして2019年2月23日に「体験食育講座」を開催し、完成した「KENKO弁当」が近隣住民や食に興味のある方に振る舞われました。



# 4 防災・減災の視点から考える 真駒内駅前のみちづくり

事業名 防災・減災・まち歩きアプリの活用による地域連携と防災教育への展開  
代表者 宇津圭祐 情報通信学部通信ネットワーク工学科准教授



**北** 北海道札幌市南区の真駒内総合福祉センターで、2018年10月6日に市民参加型ワークショップ「防災・減災の視点から考える真駒内駅前のみちづくり」を開催しました。今回のワークショップは、湘南キャンパスでの研究・開発で蓄積してきた成果を全国に展開するもので、札幌キャンパス周辺で南区内の地域住民と学生約30名が参加しまち歩きを実施。Twitter 災害情報共有アプリ「DITS・DIMS」

を使い、有事の際に活用できそうな施設や設備、あるいは危険になりそうな場所などを参加者とともに確認しました。

# 5

## 神奈川臨床倫理 カンファレンス

事業名 神奈川県湘南西部・県央地域の在宅と介護施設における医療ケア提供者に対する臨床倫理支援体制の構築  
代表者 竹下 啓 医学部医学科基盤診療学系医療倫理学教授

**神** 神奈川県にある本学医学部付属病院や森の里病院（神奈川県厚木市）にて、重度な要介護状態でも地元地域で生活できるように地域包括ケアシステムの確立を目指し、月に1回程度、地域の在宅や介護施設で医療ケアを担っている人々を参加者としてカンファレンスを開催しています。この活動を実証、実験として検証し、ほかの地域のモデルケースとなることを目指しています。



# 6 駿河湾の「塩益」を 利用した果樹

事業名 駿河湾の「塩益」を利用した久能海岸の新規果樹産地形成に関する研究  
代表者 竹内真一 海洋学部環境社会学科教授

**静** 岡県の久能海岸の石垣イチゴ産地において顧客のつなぎ止めと、産地の活性化を図ることを目的に、イチゴ収穫の後を埋める作物として期待されるブルーベリーに焦点を当て、左記の3点を中心に、他産地と差別化できる栽培技術の確立やブランド化を目指しています。これらに加えて、三保半島におけるアボカドの露地栽培試験を行っています。

- ① 三保の松原の松葉を利用した苗木生産技術の確立
- ② 駿河湾の塩益を利用した高糖度果実生産技術の確立
- ③ 羽衣伝説および羽衣の舞物語の紡ぎ出しを活用した、ブランドイメージの確立



**熊** 本県阿蘇郡南阿蘇村では、国内生産のほとんどが中国産で、原料生薬は輸入に頼っていることから、日本産の薬用植物の栽培による産業化を目指し、薬用植物の栽培技術の開発と成分分析に基づく品質保証の研究のため、薬用植物のスペインカンゾウとミシマサイコのみ2品目の栽培に取り組んでいます。

## 南阿蘇村で 薬用植物を栽培

事業名 南阿蘇村における薬用植物の栽培と薬効成分分析を基軸にした地域ブランド創生と産業活性化に関する研究  
代表者 山口 浩 九州教養教育センター准教授



# 学びの輪

東海大学地域連携センターの生涯学習講座

# 知の輪

〔東海大学の生涯学習講座とは〕

札幌から熊本・阿蘇までの7つのキャンパス・1つの実習フィールドに、19学部75学科・専攻・課程を有する広域総合大学の特長を生かし、多様な学問領域の“知”を地域の皆さまに積極的に還元すべく、講座を開講しています。



## ビールが旨い国の おいしいことば。

デンマーク語 入門

講師：Lise Schou(リーセ スコウ)  
東海大学文学部北欧学科非常勤講師



日本ではアンデルセン童話やレゴの玩具で知られ、すぐれた環境政策やインテリア・デザインなどでも注目される北欧の小国デンマーク。魅力的なデンマークの言葉を基本的な文法を勉強しながら、会話を中心に学ぶ入門講座です。

恋の百貨店『伊勢物語』を楽しみましょう！・II

講師：<sup>しままさお</sup>四籠正夫 東海大学名誉教授



## 古典の原文から 日本人の心を感じ取る。

日本最古の歌物語『伊勢物語』。素朴で綺麗な日本語で、自然で素直な日本人の心が記されるこの物語を原文で読む講座です。物語の中の、素直に笑って泣く男たちや、打って出る女、待つ女の、心の真実のままに生きる姿を原文を通して感じる事ができる味わい深さが人気です。

## JAZZを感じながら知る、 聴きながら学ぶ。

ジャズを聴く

講師：田丸智也 東海大学高輪教養教育センター准教授

ジャズのスタンダードナンバーから毎回1曲をテーマに、作曲者、歴史、名演、音楽的技法といった視点から楽曲を楽しく解説します。音源再生には録音スタジオで音楽制作に使用される音響機材を使用し、貴重なアナログレコードや、最新のハイレゾ音源などを用いて各回8作品程度を試聴する講座です。





## [2018年度実施講座 主な講座]

- 英語 [レベル別・文法・会話]
- 韓国語 [レベル別・会話・表現法]
- フランス語 [レベル別]
- 中国語 [レベル別]
- 水彩画を描こう [人物画/秋]
- 大人のためのピアノ教室 [個人/グループ]
- 英語通訳講座 [基礎/応用]
- 実践英語発音クリニック
- 翻訳から文法を学ぶ
- 工業英検1級対策講座
- フィンランド語 [レベル別/テーマ別]
- スウェーデン語 [レベル別]
- 楽しく韓国語 [レベル別]
- 論語
- 『源氏物語』[巻別]
- じっくり味わう漢詩
- 韓国の文化とハングルを楽しむ!
- ワイン講座 [テーマ別]
- 漢方講座 [テーマ別]
- アラビア書道
- 初めてのアラビア語
- アラブ・イスラーム世界のおもてなし
- イスラームに触れる
- コショウラン栽培コース
- あか牛コース
- ジャムコース
- ハーブ・花コース
- 江戸切絵図を歩く [テーマ別]
- 東京の路面電車 歴史と電車のある風景[テーマ別]

## 生涯学習講座申込案内

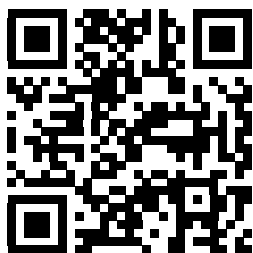
東海大学生涯学習講座は、WEB・電話にて講座の申込を受け付けています。

講座も広域総合大学の長を活かし、語学をはじめ、文学・歴史・健康・ビジネスといった多彩なジャンルの講座が目白押し!

前期(4月~9月)、後期(10月~3月)に分かれて開講していますので、ぜひ1度、WEBサイトをご覧ください!

東海大学地域連携センター 生涯学習講座

<https://ext.tokai.ac.jp/>



## ハーブ・花コース

講師: 松田 靖 東海大学農学部応用植物科学科准教授

この講座では、ご家庭でも栽培しやすく、料理をはじめ利用方法が豊富なハーブの種類や効用について解説。  
また、実際にハーブや花を用いて寄せ植えに挑戦し、水や肥料の与え方等、栽培に関するコツを学びます。  
生花を加工して作られた「プリザードフラワー」や「ドライフラワー」を使い、最近話題のハーバリウム(ガラスボトル内にシリコンオイルで保存した植物標本)の製作も体験できる講座です。



プロのガーデニング技術を伝授。

## 食に見る精神性と文化の味わい。

### アラブ・イスラーム世界の食文化

講師: 佐藤裕一 アラブイスラーム学院研究員  
徳永里砂 アラブイスラーム学院研究員

本場のアラブ料理をビュッフェ形式で楽しみながら、アラブ・イスラーム世界の食文化の特徴を、宗教的・地域的側面の双方から学べる講座です。世界のさまざまな地域・民族に広がったイスラーム世界の多様な食文化の共通点や、歴史的・地理的背景からアラビア半島の食文化を知ることができます。





東海大学地域連携センター活動報告書 2018 「ジョイント」

発行 東海大学地域連携センター  
〒259-1292  
神奈川県平塚市北金目 4-1-1  
TEL : 0463-50-2406  
FAX : 0463-50-2034  
URL : <http://coc.u-tokai.ac.jp/>

地域連携センター  
WEB サイト



facebook

